

高階恵美子女性局長を迎え 福祉対談を開催

講談師一龍斎貞花師主催のチャリティー寄席「花の会」が、11月9日、東京国立演芸場で開催されました。高階恵美子女性局長（前厚生労働大臣政務官）を迎えての福祉対談や、恒例のチャリティーオークションも実施。徳川宗家・徳川恒孝氏が特別出演した他、谷垣禎一幹事長も来会され大いに盛り上がりしました。

今回のテーマは、「訪問介護と在宅ケア」。

看護師でもある高階恵美子女性局長に、実態と問題点をお聞きしました。

まず、貞花師は「以前は自宅で亡くなる人が多かったが、現在は病院で亡くなる人がほとんど。自宅で最期を迎えたいと望む人も多くなり、老老介護の問題もある」と述べ、介護者の苦

労について質問。

高階女性局長は「住み慣れた家で最期を迎えたいと希望する人が多く、在宅ケアの環境整備充実に取り組んでいます。高齢者のみの世帯でも独り住まいでも、人の手による心の通ったお世話を、安全、確実に提供することによって、自宅で最終段階を過ごしていただけるようにしたい」と述べました。

続いて貞花師は「東北では、震災後介護利用が増え、65歳以上の介護保険料が全国有数の高額だといえます。高階女性局長は宮城のご出身で、東日本震災復興特別委員会委員でもあり、ご苦労が多いのでは」と尋ねました。

護士の補充などに取り組んでいます」と語りました。

高階女性局長は「東北は、人口当り医師数・看護師数が全国平均を下回るなど医療過疎に苦しんできた上、災害で根こそぎ奪われた。長期に渡る体制づくりの必要性があり、看護師、介

貞花師は、高齢化人口が増加するなかで、全国で介護職員が38万人不足している状況について、「なんとか介護職員を増やす方法は」と問いかけます。高階女性局長は、辞めたり、休んでいる看護師を活用することが可能になった「看護師資格保持者の登録制度」について触れ、訪問看護師・介護士の確保、増員を図り、現在4万人の訪問看護師を15万人に増やすことを目



訪問介護と在宅ケアについて語る高階女性局長



日本訪問看護財団を紹介する貞花師



高階恵美子女性局長と対談する貞花師



客席の谷垣禎一幹事長



貞花師による「家康公・人使いの妙 鯉のご意見」の一席



特別出演の徳川宗家・徳川恒孝氏



公益財団法人日本訪問看護財団の清水嘉子理事長に収益金を贈呈



大盛況のチャリティーオークション

標にしていることを説明しました。

貞花師は「看護職の月収は全産業平均より10万円ほど低く、仕事もきついため辞める人が多くてなり手も少ない。しかし、待遇を改善すれば利用者の負担が増える」と説明。それに対して高階女性局長は、「看護職の中でも、訪問看護師の報酬は低い。お世話をしている社会保障の尊い看護職、介護職をもっと手厚く保護する政策をつくるべく努力しています」と述べました。

また、一人暮らしの高齢者が亡くなられて何日も気付かれないう孤独死をなくす必要性を貞花師は訴えます。そのためには、民生委員の訪問だけでなく、新聞や郵便物の溜まり具合を配達する人が気をつける、使用状況で生存確認ができる電気ポットを使うなど様々な方法があり、そして、地域・マンション・団地のネットワーク作りも大切になることを指摘します。

高階女性局長も、保健医療や福祉を担う人材と、サービス提

供機関の相互支援の体制を整備することが必要だと認識。「訪問看護事業者同士が連携し、そして地域のネットワークと手を携えて、24時間365日対応できるようにしていかなければ」と述べました。

「自宅で亡くなる方が増え、訪問看護職の方々が看取りもしなければいけないので大変では」と貞花師が質問。高階女性局長は「悲しいことですが、命には終わりがあります。残された方のためにも、きちんと最期のお世話対応ができるよう努力したい」と力強い言葉で語りました。

さらに貞花師は「看護・介護職の方のストレスも多いと思います。健康でなければ人様のお世話はできないのでは」と聞くと、高階女性局長は「労働時間、体制、そして健康にも配慮しなければ」と答えています。

最後に、貞花師は高階女性局長に「女性局長として『女性の健康』のための活動をなされていると伺っています。看護師ですので最適なお役目と思っ

ています。お元気で活躍ください」と結び、高階女性局長に大きな拍手が送られました。また、貞花師が「女性局の児童虐待防止キャンペーンを推進され、女性の健康」の全面展開を進められているのが谷垣禎一幹事長です」と谷垣幹事長を紹介すると、客席から熱い声援や拍手が送られ、谷垣幹事長はいつもの優しい笑顔で応えました。客席には石田昌宏参議院議員の姿もありました。

そして、家康公没後400年とあって、徳川宗家・徳川恒孝

氏が「三河から江戸へ、家康公の長い旅」と題して寄席に特別出演。来場者は18代当主の講演を拝聴しました。

貞花師は「家康公・人使いの妙 鯉のご意見」の一席。チャリティーオークションでは、自民党を支援している山崎製パン(株)をはじめ、たくさんのお客様が完売。収益は公益財団法人日本訪問看護財団の清水嘉子理事長(元環境庁長官)に贈られました。保護司でありボランティア活動に熱心な貞花師の「花の会」でした。

(写真撮影・森松夫)

貞花師の色紙
プレゼント



平成28年の干支は丙申(ひのえさる)。開運・招福の願いを込め貞花師が描いた色紙を1名様にプレゼントします。ご希望の方は、巻末のハガキにプレゼント商品をご記入の上、ご応募ください。締め切りは平成28年1月10日消印有効。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。